

学校名	沖縄県立 八重山特別支援学校
-----	----------------

活動のテーマ	学校防災システムを活用した総合避難訓練
主な教科領域等	教科領域（ 生活科 ）
活動に参加した児童生徒数	（ 全生徒 63 人）（複数可）
活動に携わった教員数	72 人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	_____人 【保護者・地域住民・その他（ _____ ）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に丸をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	西暦 2020 年 4 月 _____ 日 ～ 2021 年 2 月 _____ 日
想定する災害	※該当するものに丸をつけてください。複数可。 (地震)・(津波)・台風・洪水・河川氾濫・土砂・その他(_____)

活動報告

1) 活動の目的・ねらい

本校における課題点をまとめ、全職員、幼児児童生徒が主体となって防災学習に取り組み、災害時に主体的に適切な行動がとれるようにする。

2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

日時	内 容
4月	石垣市宮良小学校合同避難訓練打ち合わせ①防災マニュアル見直し
5月	石垣市防災危機管理室 打ち合わせ
6月	石垣市宮良小学校合同避難訓練打ち合わせ②
7月	「防災便り発行①・ショート訓練①・株式会社センチュリー打ち合わせ・防災意識調査(職員)、学校防災対応システム導入校モデル校研修会
8月	ショート訓練②
9月	ショート訓練③・石垣市宮良小学校合同避難訓練打ち合わせ
10月	「宮良小学校合同地震火災津波避難訓練」
11月	沖縄県健康教育大会発表原稿提出・防災便り②号
12月	学校防災対応システム導入校研修会
2月	沖縄県健康教育大会実践報告会
3月	学校防災安全マニュアル見直し作業及び提出

3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。助成金で購入した「お散歩カー」を活用し、幼児児童生徒をある程度まとまって避難することができた。また、非常食や防災備品を購入し、全体に周知し、活用方法などを共有することで、職員の防災に対する意識が高まった。

4) 実践の成果

①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

総合避難訓練では大雨により実施ができなかったが、防災マニュアルの見直し作業をし、より実践的な避難体制を構築することができた。また、地域の小学校と防災をテーマに交流できたことで、地域の方へ特別支援学校の生徒への理解を促すきっかけになった。

②児童生徒にとって具体的にどのような学び(変容)があり、どのような力(資質・能力・態度)を身につけたか。

幼児児童生徒が学びの中心になるような授業設定をすることで、いろいろなアイデアが生まれ興味関心を持って学習に取り組むことができた。また、繰り返しの学習が定着し、教師の少ない指示で自ら状況を判断し、避難行動をとることができるようになった生徒がいた。

③教師や保護者、地域、関係機関等(児童生徒以外)の視点から

職員への学校の防災体制についてのアンケートでは、避難場所や学校に設置されている防災機器の周知がされておらず、初めて存在を知る職員もいたが、アンケート調査後に周知することができた。また、保護者への本校の防災体制理解を促す「防災便り」を発行し、理解と協力を得ることができた。

5) 自校の実践で工夫した点、特筆すべき点

- 地域との連携した合同避難訓練(石垣市防災危機管理室、株式会社センチュリー、石垣市立宮良小学校)
- 幼児児童生徒が中心となった防災学習「ショート訓練のPR動画」「地域の防災マップ」「校内の防災マップ」「もくもくトンネル(火災発生時に適切な避難行動の模擬体験)」「防災スタンプラリー」「非常食体験(栄養士と連携)」

6) 実践から得られた教訓や課題と今後の改善に向けた方策や展望

- 新型コロナ感染拡大防止による避難経路、避難方法の検討が急務
- 地域住民との継続した合同避難訓練。